

和光市教育振興基本計画 中間評価シート

基本施策8	生涯学習の振興
市民の多様なニーズに対応した学習機会を提供し、市民が自主的な学習活動を行い、学んだことを地域で生かせるようにします。	

■現状と課題

生涯学習活動を充実させていく上で、生涯学習の市民への浸透が十分ではなく、地域に潜在する社会教育資源や人材の発見、育成及び有効活用が求められています。
活動団体の構成員の高齢化やメンバーの固定化、また登録団体が年々減少していることから、若い年齢層の参加及び利用団体の促進を図る必要があります。
生涯学習講座などに関して、学習者の年齢層に偏りがあり、人々が生涯にわたっていつでもどこでも自由に学ぶことができ、その成果を適切に生かすという生涯学習の意義から、より幅広い世代の参加が求められています。
社会教育施設については、施設及び設備の老朽化に伴い、市民の方が安心安全に利用できる環境にするため、計画的に修繕を行うことが求められています。
図書館については、蔵書の充実や情報化への対応など、市民の多様化するニーズへの取組や、全ての子供たちが本に親しむことができる環境づくりが求められています。

■指標(計画策定時)

①生涯学習の充実度

令和2年度(現状値) 21.1% ➡ 令和7年度(目標値) 50.0%

【定義】第五次総合振興計画アンケートにおける「心豊かな市民生活を築けるよう生涯学習を充実させる」で「満足」「まあ満足」と回答した割合

【目標値】現状の満足度が約2割であることから、今後は「どちらとも言えない」と回答した人の半数値を満足度に加え、約5割の満足度を目指す。

②一人ひとりが個性と能力を発揮できる社会づくり

令和2年度(現状値) 20.5% ➡ 令和7年度(目標値) 50.0%

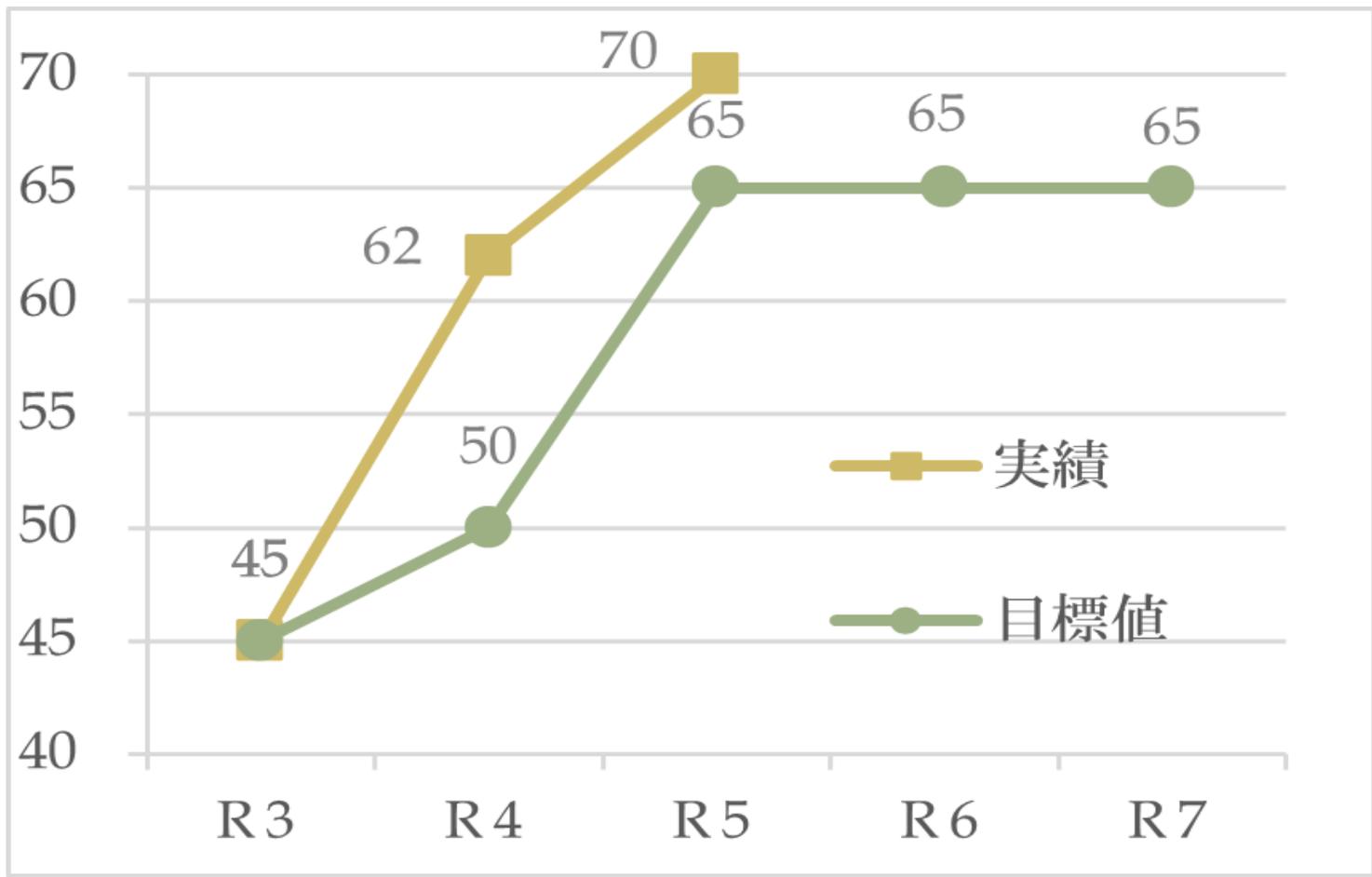
【定義】第五次総合振興計画アンケートにおける「一人ひとりが個性と能力を発揮できる社会づくりを進める」で「満足」「まあ満足」と回答した割合

【目標値】現状の満足度が約2割であることから、今後は「どちらとも言えない」と回答した人の半数値を満足度に加え、約5割の満足度を目指す。

■令和3年度～5年度の指標及び結果

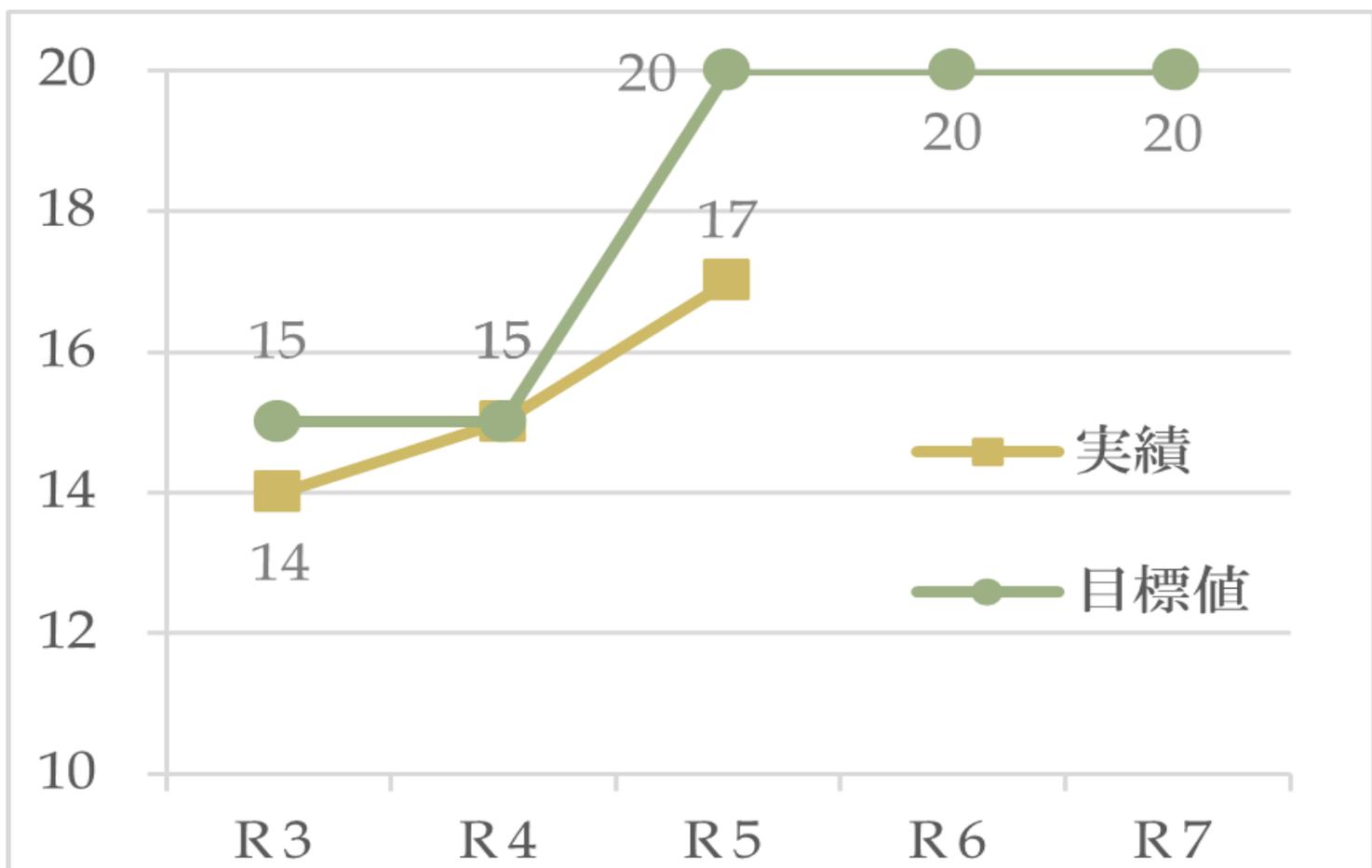
①地域課題に関する講座の数

防災や健康、子育てなど地域の課題をテーマとして実施した講座の件数



②生涯学習指導者活動件数

生涯学習指導者として登録されている地域の方を講座として実施した件数



■主な取組

施策1	市民の主体的・自主的な学習活動の支援
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・わこう市政学習おとどけ講座や生涯学習指導者紹介事業の周知を図り、学びの成果を還元します。 ・今日的課題や地域課題をテーマとし、受講対象を明確にした市民大学等の機会を通じて、諸活動を担うファシリテーターの育成に努めていきます。 ・公民館自主サークル活動の育成・支援を図りサークル間の交流を推進します。 ・地域の公民館を中心とした課題に取り組み、地域社会への参加を推進します。 ・公民館利用団体協議会との協働・連携による事業の推進を図ります。
具体的な事業・取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・市民大学、子ども大学、市政おとどけ講座を実施した。 ・和光市民大学、子ども大学を市内の関係機関の協力を得て開催した。また、生涯学習指導者として登録されている方を活用し、家庭教育支援をテーマとして特別講座を開催した。 【協力をいただいた主な機関】 本田技研、埼玉病院、税務大学、理化学研究所、保健医療科学院、十文字学園女子大学、跡見学園女子大学、裁判所職員総合研修所 等 ・学校開放講座(天体観測会)を実施。新倉ふるさと民家園において、市内の全小学校の3年生の課外授業を受け入れた。また、家庭教育支援をテーマとして特別講座を開催した。地域が学校教育に関わっていく地域学校協働活動では、公民館利用者や市民の方が指導者として授業支援やクラブ活動支援、環境整備支援を実施、また面接練習支援等にも市民の方が携わった。 ・市民まつりでは、芸能発表や子どものダンス発表など様々な世代が参加・交流し、各公民館の祭りにおいても、中央公民館でのスプリングコンサート、南公民館でのスーパーディスコにおいても多種多様な方が参加し、交流ができた。また、地域学校協働活動による学校支援を通して地域の方が子どもと関わることができ、交流ができた。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育的資源を活かした市民大学等、充実した講座を開催できた。今後も市民ニーズや地域課題、社会情勢を考慮した講座を企画していく。 ・市民大学、子ども大学では和光市の特徴の一つである国等の機関と連携し、他では受講できない、講座を開催できた。また、生涯学習指導者登録・紹介事業を実施し、人材の活用や、市民の自発的な学習を支援した。今後も継続して実施していくとともに、当たな人材発掘にも努めていく。 ・地域で活動する方の協力を得ながら学校教育との連携ができた。また、二年目となった地域学校協働活動により、地域の方が学校教育に対して協力しやすい環境になり、また学校も地域の力を活かした子どもの育成を計画するようになってきている。 ・今後も多世代間交流を意識して事業を行う。

施策2	社会教育施設の充実
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが利用しやすい施設の管理運営を行います。 ・施設の特性を配慮しつつ、ユニバーサルデザインなど安心安全な施設利用ができるよう努めます。
具体的な事業・取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に不便がないよう、故障箇所について適宜修繕を行った。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル時代に即した必要不可欠なものとして、また、公民館活動の幅が広がるよう、Wi-Fi設備の全館導入に努める。 ・各施設が相当の築年数が経過し不具合がでており、中には大規模な修繕等が必要なものもあるため、計画的に進められるように調整していく。
施策3	生涯学習に関するネットワークの構築と活用
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館、図書館及び新倉ふるさと民家園並びに市内研究機関や提携大学などと生涯学習に関するネットワークを構築し、情報の収集、共有及び発信を進めます。
具体的な事業・取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の研究機関等に協力をいただき講座を実施した。 【協力をしていただいた機関】 本田技研、埼玉病院、税務大学、理化学研究所、保健医療科学院、十文字学園女子大学、跡見学園女子大学、裁判所職員総合研修所 等 ・年に2回、広報わこうに生涯学習だよりを掲載。生涯学習の情報を提供するメールマガジンを配信。また適宜、LINEやX(旧Twitter)による周知も実施。 ・公民館活動団体や地域の方、高校などにより、学校のクラブ活動支援、授業支援、環境整備等が実施でき、支援者同士の繋がりが図れた。 また、小学生が主体となって公民館で地域の方々と交流する事業が実施された。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携し他講座の実施ができており、今後も継続していく。 また、新たな連携団体も模索していく。 ・SNS有効活用など、新たな情報発信ツールを検討していく。

施策4	多様な市民ニーズに対応した講座の企画・開催
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な市民ニーズや現代的課題に対応した学習機会の創出及び充実を図り、諸活動を担うファシリテーターの育成に努めます。 ・各公民館において、受講者とともに地域のつながりができる講座を充実させます。 ・子ども大学わこうや市民大学等の機会を通じて、地域課題解決につながる講座を充実させます。
具体的な事業・取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・各公民館でスマートフォン講座や家庭教育講座、高齢者対象講座等の現代的課題に対応した講座・教室を実施した。 【講座例】 スマホ講座、STEM教育講座:ピタゴラ装置を作る、子どものための安全教室、介護予防講座 ・公民館利用団体との協働により公民館まつり等を開催した。 また、各公民館を拠点とした地域協働学校活動で公民館利用団体や地域住民と協働で学校支援を実施した。 【事業例】 中央公民館文化祭、スプリングコンサート、坂下公民館まつり、南公民館まつり ・各種課題解決につながる内容となる講座を企画し、生涯学習指導者を活用したほか、公民館利用者が講師を務める内容とした。 【講座例】 音楽を聴きながらストレッチ体操、親子で楽しくクッキング、水墨画で「冬」を描こう、年賀状を筆で書こう、顔の筋力づくりとボイストレーニング、子ども卓球教室、じゃがいも掘り、書初め教室、和太鼓体験教室 ・共に学べる場を提供するため、各公民館において、講座を企画する際、対象年齢を設けることはあるが、それ以外の制限をつけて実施することはない。 ・多文化共生推進に向けた国際理解講座として、他国の文化・風習などを知ってもらえる講座を各公民館で開催した。 【講座例】 世界を巡る！エチオピアとタイの文化に触れよう、子ども国際交流教室（イタリア・インド）、外国文化講座「今年こそ英語を身に着けよう～リズム英語で楽しく話せる人になる～」、国際理解講座(フランス共和国)

自己評価	<ul style="list-style-type: none">・現代的課題は多岐にわたるため、トレンドの見極めや、アンケート等で市民ニーズを吸い上げ、適切な講座開催を行うことができた。デジタル社会が加速度的に進み、行政も手続を電子申請化するなどDXを推進しており、スマートフォンの利用が必須となりつつある一方で、高齢者世代を中心に操作等の不安が広がっているため、スマートフォン講座は今後も続けていく必要がある。・公民館利用団体と地域住民の交流を通じ、人と人とのつながりを意識した結果、公民館の認知度向上につながった。・公民館利用団体が、公民館で学んだことを地域住民に還元することで、公民館を知るきっかけになるとともに、活動への参加につなげることもできた。生涯学習指導者や関係機関、民間団体等を積極的に活用し、課題解決のヒントとなる講座を開催したことで、利用者の意識改革や理解が深まった。今後も市民ニーズや社会情勢を考慮した講座を企画していく。・引き続き、誰もが気軽に参加することのできる講座を企画・運営していく。・他国の文化・風習に触れることで、その国への理解が深まるとともに、多文化共生の醸成を図ることができた。
------	--

施策5	図書館機能の充実
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティを支える情報拠点を目指し、図書館機能を充実させます。 ・学校における読書活動への支援、学校図書館との連携を推進します。 ・中高生サービスや障害者、高齢者等へのサービスを充実します。 ・市内の機関や企業との連携を実施し、地域との連携やボランティアの育成、支援、連携を推進します。
具体的な事業・取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に蔵書の購入及び、除籍を進めた。(令和5年度末蔵書数:本館187,125点、分館59,023点) ・図書館アドバイザー研修「現代における学校図書館の役割」の開催等、テーマ貸出等を行い支援した。 <ul style="list-style-type: none"> <中高生講座> ビブリオバトル、図書館クラブ <アクティブシニア向け講座> 認知症予防のための図書館利用術、大人のための朗読劇場、図書館の本をスマホでらくらく予約しよう、スマホ講座、どこでも誰でも簡単に！体操・ストレッチでリフレッシュ！、おとなの朗読会、楽しく学ぶ和光市史から読みとく和光の歴史 ・障害者サービスの周知のため、名刺判の案内を配布した。令和5年10月には「ディスプレイシア月間」にあわせて関連本の展示を行った。 ・ボランティア団体による読み聞かせや、他の公共機関と連携した事業を実施した。 【連携した公共機関】 下新倉小学校、下新倉児童館、十文字学園女子大学等
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者からのリクエストやアンケートを参考に、収集方針に基づいた蔵書の購入及び、除籍を適切に実施した。 ・研修により図書館アドバイザーのスキルアップを支援することができた。調べ学習の支援として学校図書館と連携し、テーマ貸出等、適切に実施した。 ・適切に実施した。今後も引き続き中高生、アクティブシニア対象の事業を行って行く。また、障害者サービスの周知に努める。 ・適切に実施した。今後も引き続き市民や公共機関等と連携した事業や展示を行っていく。今後もボランティアの養成を行い、さらなる充実を目指していく。

■社会教育委員の意見・提言

[評価者:]

-
-
-
-
-

■今後の取組

 このまま継続にむけて検討 改善して継続を検討 事業の大幅な見直しを検討

■用語解説

【ファシリテーター】

グループや組織がより協力し、共通の目的を理解し、目的達成のための計画立案を支援する人のことです。

【STEM教育】

Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Mathematics(数学)の4つの分野を統合した教育手法で、これらの分野を横断的に学ぶことを目的としています。STEM教育は技術革新や問題解決能力を育成するために重要視されています。

【ビブリオバトル】

図書館や学校で行われている読書イベントで、参加者が自分のおすすめの本を紹介し、そのプレゼンテーションを通じて読書の楽しさを共有する活動です。このイベントは、読書習慣を身につけるだけでなく、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養うことにも役立ちます。

【アクティブシニア】

「仕事・趣味などに意欲的で、健康意識が高い傾向にある活発な高齢者」の通称です

【ディスクレシア月間】

ディスレクシアは学習障害のひとつで、文字の読み書きが正確にまたはすらすらとできない症状です。正しい理解やサポート体制が社会全体に根付くよう、国内でディスレクシア啓発支援に関わる団体が連携し、10月をディスレクシア月間とするキャンペーンが行われています。